



# Y+T MOCA SPECIAL REPORT



## 横尾忠則の緊急事態宣言 2020.9.19(土)－12.20(日)

この期間には、本来はY字路シリーズ誕生20周年を記念した企画展を予定していました。ところが、コロナの影響で相変わらず横尾さんとの打ち合わせはままならず、作品を集荷するはずの9月前半は、東京を中心にまさに感染第二波のピークを迎えていたため、当初通りに展覧会を実施するのは困難と判断しました。

代替案を検討するにあたり、念頭にあったのはやはり「コロナ禍」であり、「緊急事態宣言」でした。そういえば、横尾さんは何か大きな節目や転機を迎えるたびに「宣言」を行ってきました（最も有名なのは「画家宣言」）。パンデミックに即応してツイッター上でマスク・アート《With Corona》を発表するなど、精力的に活動する横尾さんと、これまでに制作した「危機的状況」をモチーフとした作品群にスポットをあてるに際して、「緊急事態宣言」はまさにぴったりなことばだと思われました。

こうして生まれた「横尾忠則の緊急事態宣言」展は、横尾さんの絵画から「緊急事態」を連想させる作品群をセレクトし、さらに《With Corona》を組み合わせたものです。規則的な絵画群の展示と、それを侵食するかのように増殖する《With Corona》は、まさにウイルスが爆発的に増殖するパンデミックを連想させます。急づくりのコレクション展でありながら、常に時代に敏感に反応し、時にはそれを予見するかのような作品を生み出してきた横尾芸術のいち側面に、幾分は光を当てることができたでしょうか。

(YA)



### 横尾忠則×草刈民代の世界 —アートとダンスの競演— 「in between」

収録:2020年11月30日(月)



人が多数集まるイベントの開催が難しいなか、草刈民代さんらによるダンス・パフォーマンス《in between》を「緊急事態宣言」展の会場で、無観客で収録しました。草刈民代さんのダンス、森優貴さんの共演および振り付け、周防正行さんの映像監修、串野真也さんの衣装、フィリップ・グラスさんの楽曲提供による、アートとダンスとの前代未聞のコラボレーションは、横尾忠則現代美術館の公式YouTubeチャンネルにて好評公開中です。

(YA)



2021年はYOKOO YEAR—横尾さんの大規模な個展が巡回するために当館の収蔵庫から大量の作品が消える—その覚悟はできていたものの、近年にない規模のパンデミックに日常が大きく変化することは想定外でした。

「GENKYO 横尾忠則」展に出品する作品の調整が始まったのは2019年12月頃。その直後に新型コロナウイルスが世界を襲い、貸出準備を進めながら、臨時休館や展覧会の中止、スケジュールの見直しなどの対応に追われ、自館の次回展のことなど考える余裕もなく、気づけば展覧会は半年後に迫っていました。

2020年秋になっても事態は好転せず、コロナ禍での人と物の移動を極力抑えるために外部からの作品借用を断念。一方でGENKYO展に送り出す作品136点（後に追加されて190点）はいずれも横尾さんの画業を振り返るために不可欠な代表作ばかり。残った作品

## YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021

当館の4階に、新たにギャラリーが開設されました。ここで、横尾さんが長年収集してきた作品のコレクションを展示するためです。横尾さんと親交があったり、大きく影響を受けたりした作家たちの作品をご覧いただくことは、横尾さんの芸術家像やその制作の背景をより深く知るためには重要な手がかりになります。本来ならば、3月にはコレクションの一部をお披露目する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、作品を輸送して、調査や額装といった展示のための準備を終えることができませんでした。そこで今年度の前半は、2012年の開館以来当館で開催されてきた展覧会のポスターとカタログをすべてお見せすることにしました。展覧会開催のたびに横尾さんによってデザインされたポスターと、横尾さんの並々ならない思いが詰め込まれたカタログがずらりと並び、開館10周年という節目の年を前にして思いがけず館の活動を振り返ることができました。そして9月からは、「横尾忠則の恐怖の館」展に関連するアーカイブ資料やポスター、デッサンなどを展示予定です。来年には、改めて横尾さんのコレクションを紹介するとともに、企画展の内容に連動した作品とアーカイブ資料などを織り交ぜてご紹介していく予定です。2階・3階で企画展をお楽しみいただいた後に、ここでさらに内容を掘り下げたり、細かな情報を拾ったりすることができるような「痒いところに手がとどく展示」を目指します。

(ON)



2期に分けて、ポスター 29点とカタログ25冊を展示

## Curators in Panic ～横尾忠則展 学芸員危機一髪 2021.3.27(土)－8.22(日)



会期中には「ほげ日曜日」会場と繋いだインスタライブ、「学芸員、『推し』を語る」と題した公開座談会や、学芸員のアバターがおしゃべりするYouTube動画の配信も。横尾さん不在のなか、勝手に盛り上がりました。

(HM)



カタログの表紙には貸出作業中の当館学芸員

### 横尾忠則×川井郁子 —アートとヴァイオリンの競演— 「Unframed」

収録:2021年5月6日(木)



緊急事態宣言による臨時休館中、無人の展示室で収録された映像作品をYouTube配信。ヴァイオリニストの川井郁子さんが展示作品からインスピレーションを得て自ら選曲した2曲「アルバ」「ラストタンゴ・インバリ」を演奏しました。

(HM)



Photo: Koji Uemura

のエピソード、時にはマニアクな調査報告まで、危機的状況とは対照的な「ゆるさ」を演出。来場者のみなさまから「学芸員の愛情が伝わりました」との感想をたくさんいただきました。

選出作品は主題も作風もバラバラですが、制作年順に並べてみると横尾さんの関心の移り変わりや自由な制作態度が浮かび上がり、それでいて混沌としたエネルギーに満ちた空間になりました。選抜メンバーを逃した「うちの子」たちが生き生きしているのを見ると、「学芸員の推し」という苦し紛れのテーマが作品によって立証されたようで、推薦者として誇らしい気分になります。学芸員主体のように見えながら、実は作品主体の展覧会だと実感しました。

会期中には展示中の作品をGENKYO展にさらわれるというハプニングもあり、終始危機に見舞われた、タイトルどりの展覧会でした。

(HM)



本展最大の見所。  
約30点もの新作による「原郷の森」コーナー



赤のシリーズ。壁も床も真っ赤です



スイマーのシリーズ。海外から里帰りした作品も多数展示されています

## GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？ 東京都現代美術館 2021.7.17(土)－10.17(日)

過去最大規模の横尾さんの個展が、ついに開幕しました。本来は愛知県美術館→東京都現代美術館→大分県立美術館の3会場を巡る巡回展なのですが、東京のみ完全に別バージョンで、さらにパワーアップしています。見どころはありすぎて書ききれないのですが、ひとつあげるとすれば、なんといっても東京展のために新たに描き下ろされた約30点もの新作でしょう。最後のセクション「原郷の森」に展示された新作群は、一見してこれまでの作品と全く印象が異なります。横尾さんの新境地を、ぜひご自身の眼でご覧になってください。(YA)



「GENKYO 横尾忠則 II Works  
原郷から幻境へ、そして現況は？」  
(国書刊行会)



『GENKYO 横尾忠則 I A Visual Story  
原郷から幻境へ、そして現況は？』  
(国書刊行会)



©テレビ朝日

あの長寿番組「徹子の部屋」にも出演

### メディアも横尾まつり

横尾さん史上最大規模の個展に合わせて、各種メディアで特集が組まれました。「日曜美術館」(NHK)は12年ぶり4回目。ピカソ、北斎と並んで番組史上最多出演だそう。「徹子の部屋」(テレビ朝日)では旧知の仲の黒柳さんと再会。また、雑誌や新聞の取材も相次ぎ、あちこちで横尾さんの姿を見られる夏になりました。(HM)

## 横尾忠則：The Artists 21\_21 DESIGN SIGHTギャラリー3 2021.7.21(水)－10.17(日)

アーティスト、哲学者、科学者など、カルティエ現代美術財団の依頼で2014年から描き続けている肖像画139点を日本初公開。キャンバスを実験場に、実に多様な手法が用いられています。色鮮やかな作品に満たされた空間は、横尾さんのパレットの中に入り込んだよう。描かれた人物と描法を繋ぎ合わせて「なるほど」と感じたり、知らない人物を想像したりできる、楽しい展覧会です。(HM)



見逃した方は画集をどうぞ  
『カルティエ そこに集いし者』(国書刊行会)



描き方のバリエーションにびっくりです



アロハシャツやレコードがずらりと並びます

「横尾只海苔」  
と当館ばんだかふふのランチを勝手にコラボ



『YOKOO LIFE 横尾忠則の生活』(ほぼ日)

## YOKOO LIFE 横尾忠則の生活 渋谷パルコ8F「ほぼ日曜日」 2021.7.17(土)－8.22(日)

「あのすごい作品をつくる人の頭のなか、ふだんの暮らしは、どうなっているのだろう」という疑問に答える展覧会。人気のウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」に掲載された糸井重里さんと横尾さんとの対話や、こぼれ落ちた雑談などをまとめた書籍『YOKOO LIFE』の発刊にあわせて開催されました。愛用の自転車やトートバッグに、かつて当館で展示したレコードやアロハシャツも！(当時見つからなかったものもありました) GENKYO展のチケットを見せると「横尾只海苔」(横尾さんの手書き文字が入った海苔！)のプレゼント。(HM)

## 東京大壁画 丸ビル・新丸ビル、東京 2021.7.17(土)－9.5(日)

東京の玄関口、丸の内の丸ビルと新丸ビルの外壁に、横尾さんと長女の美美さんによる巨大なパブリック・アートが出現しました。新丸ビルには、横尾さんがコレクションした膨大な淹のポストカードが、それぞれの窓に拡大出力して展示されています。本来これらは、昨年の同時期、延期となった東京オリンピックにあわせて計画されていました。実はその時期が、2019年に当館で開催された「横尾忠則 自我自損展」ともろかぶりだったのです。当館でも淹のポストカードによるインスタレーションを予定していたため、東京大壁画のためのポストカードのスキニングとのスケジュール調整に四苦八苦したのを思い出します。(YA)



横尾美美《火(ignis)》(左)と  
横尾忠則《水(aqua)》(右)

# YOKOO FESTIVAL in TOKYO



### MoMA × Swatch に横尾さん

ニューヨーク近代美術館 (MoMA) からスイスの時計メーカー スウォッチ (Swatch) とコラボした腕時計が発売されました。同館の所蔵品から起こした6つのデザインには、ファン・ゴッホ、クリムト、アンリ・ルソー、モンドリアンに並んで横尾さんの作品が2点も選ばれています。一つは、1965年の《都市とデザイン (鹿島研究所出版会)》、もう一つは1968年の《NEW YORK (ポスターオリジナルズ ニューヨーク)》です。文字盤だけでなく、ベルトやケースの意匠も凝っています。日本でも、MoMA デザインストアのオンラインストアなどから購入することができます。 (ON)

画像提供: Swatch



### 新作マスク登場

話題のマスクがついに発売されました。近作の「WITHOUT CONONA」でたびたび登場しており、気になっていた方も多いのではないのでしょうか。全9種類で、カラーや刺繍が異なります。当館のミュージアムショップでも販売していますので、ぜひお気に入りの一枚を見つけてみてください。 (OS)



### MoMAデザインストアからパズル発売

ニューヨーク近代美術館の収蔵作品を使ったジグソーパズルが新たに発売されました。アンドリュー・ワイエス、フリーダ・カーロ、アルマ・トーマスといった世界的な芸術家たちとともに、横尾さんが1989年に手がけたポスター《ARE YOU READY FOR FRESH AIR? (Vitar)》が選ばれています。1000ピースという大ボリュームのパズルに取り組むうちに、作品にもゆっくりと向き合うことができますね。 (ON)

### Supreme からコラボシャツ

ニューヨークのファッションブランド Supreme (シュプリーム) の2021年秋冬コレクションに、横尾さんの作品をプリントしたサッカージャージシャツが登場。1993年に制作されたテクナメーション作品《All for One, One for All (皆は一人のため、一人は皆のために)》がもともとなったデザインと、これに別作品《天使光線》(1994年)のイメージを重ねたものの2種類。ポップでありながら、どこか折りのメッセージを感じさせます。 (HM)



### 「TADANORI YOKOO ISSEY MIYAKE 1」

わずか7色の糸で鮮やかな横尾作品を表現したブルゾンで幕を開けた「TADANORI YOKOO ISSEY MIYAKE」プロジェクトの第2弾。「1」シリーズは、モノクロームに鮮やかな差し色が映えるジャケットとパンツ。1970年代から横尾さんが手がけてきたISSEY MIYAKE バリコレクションの招待状のデザインがモチーフです。限られた招待客だけが目にする特別な作品が、着られるアートになって登場です。 (HM)



©ISSEY MIYAKE INC. Photo: Hiroshi Iwasaki



### 『往復書簡 老親友のナisho文』出版

『週刊朝日』にて連載中の横尾さんと瀬戸内寂聴さんの手紙形式によるやりとりをまとめた『往復書簡 老親友のナisho文』が2月に朝日新聞出版から出版されました。85歳と99歳、年齢差14歳にして数十年來の友人どうしが、日々の出来事や思い出を通して、感じたことや相手に伝えたいことを軽妙な文章で交わします。おふたりの親密な会話をおすそ分けしてもらう気分で読んでみませんか。 (ON)

### インタビュー公開中

国際交流基金が、「Beyond the Lines: 日本の美術作家シリーズ」というタイトルで、新型コロナウイルス感染症の流行によって予定していた展覧会開催に何らかの



影響を受けた6名の作家にインタビューを行い、YouTubeチャンネルで公開しています。横尾さんもそのうちの一人です。作家自身の言葉で何を思い制作しているのかが語られています。 (ON)



### 写楽への挑戦状？

### YUKIKOMIZUTANI

2021.1.20 (水) - 2.27 (土)

東京・東品川にオープンしたギャラリー、YUKIKOMIZUTANIでは横尾さんの新作版画展「摺れ摺れ草」を開催。東洲斎写楽の大首絵をモチーフにした横尾さんの原画に彫り師と摺り師の技が加わった鮮やかな木版画が完成しました。画家になる前に勤めていた印刷所で、試し刷りの紙に偶発的に重ねられるイメージに魅力を見出した横尾さんの原点が、意図的な版ズレと多彩な色のパターンに表れています。会場には進行中のプロジェクト「WITH CORONA」「WITHOUT CORONA」も合わせて展示されました。 (HM)



Preview

横尾忠則の恐怖の館

2021年9月18日(土)－2022年2月27日(日)



我々は未知のものに対してしばしば恐怖を抱きます。それは好奇心と表裏一体であり、怖いけど見たい、といったアンビバレントな感情を誘発します。横尾忠則は、見えるものや科学で説明できる領域外のものにも、一貫して関心を寄せてきました。それには、郷里の西脇での幼少期の体験が深く関わっています。都会ではありえない深い闇や、神秘的な体験の数々は、『江戸川乱歩全集』の挿絵を始めとするイラストレーションや、画家宣言以降の絵画作品にも色濃く反映されています。本展は、そうした横尾の多彩な作品を通じて、「芸術」と「恐怖」との関係性について考察するものです。

(YA)

公式 YouTube チャンネルはじめました

コロナ禍により、臨時休館やイベントの中止など、さまざまな面で美術館における活動を制限せざるを得ない状況となりました。そんな状況下で作品と鑑賞者を繋ぐような機会を設けることはできないかと考えたことをきっかけに、2020年7月に当館の公式 YouTube チャンネルを開設しました。担当学芸員が見どころを紹介し、お家にいながら展覧会の一部を楽しむことができる「ギャラリートーク」や、多彩なジャンルのアーティストを迎えて制作した映像作品「Unframed」「in between」など、趣向を凝らしたコンテンツを発信しています。また、海外のお客様にも楽しんでいただけるよう、動画は2ヶ国語（一部4ヶ国語）に対応。コロナ禍での美術館活動の記録にもなっています。(OS)



兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

|                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 特別展                                                                        |
| ハリー・ポッターと魔法の歴史                                                             |
| 2021年9月11日(土)－11月7日(日)                                                     |
| ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展                                                      |
| 2021年11月20日(土)－2022年2月27日(日)                                               |
| コレクション展                                                                    |
| 小企画   美術の中のかたち―手で見る造形 東影智裕展―触知の森                                           |
| 2021年7月17日(土)－9月26日(日)                                                     |
| 特集   なぜここにいるの―伊藤文化財団寄贈作品・新収蔵品を中心に                                          |
| 2019年7月17日(土)－12月26日(日)                                                    |
| ※展示替え期間中(9月27日－10月8日)は常設展示室を閉室します                                          |
| ※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください) |

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.26

2021年9月18日発行

編集 平林恵(横尾忠則現代美術館 学芸員)  
編集補助 尾崎幸恵(同学芸員補助)  
執筆 YA: 山本淳夫(同館長補佐兼学芸課長)  
HM: 平林恵  
ON: 小野尚子(同館学芸員)  
OS: 尾崎幸恵  
デザイン 相島大地(ヨコオズ・サーカス)  
印刷 岡村印刷工業株式会社  
発行 横尾忠則現代美術館

Yokoo Tadanori  
Museum of  
Contemporary Art  
Y+T  
MOCA  
横尾忠則現代美術館



開館時間 10:00-18:00 (入場は17:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)／年末年始／メンテナンス休館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30  
Tel: 078-855-5607 (総合案内) / Fax: 078-806-3888  
https://ytmoca.jp  
Y+Tメールマガジン登録 https://ytmoca.jp/about/media/





# INFORMATION